

## 経営者として学校教育に望むこと

米屋株式会社 代表取締役社長 もろおか 諸岡 よしかず 良和



私は成田市にある米屋株式会社という和菓子製造会社を経営しております。成田山新勝寺の参道にある總本店をはじめ県内28店舗で直営店舗展開をしております。またその他にもスーパーマーケットやサービスエリア、空港、駅ナカなどの商業施設や交通施設、セブンイレブンやファミリーマートなどコンビニエンスストアでも商品を販売しております。

創業は明治32年（1899年）で、当初は成田山参詣のおみやげとして羊羹を販売しておりました。その後缶入り水ようかんを開発し全国に販路を広げ、現在では千葉銘菓を基幹事業として展開しています。その中でも最も人気のある「びーなっつ最中」は本年発売25周年を迎えました。今後も日常のおやつから贈り物、そして節句や冠婚葬祭の引き出物など、人生のいろいろな場面でご愛顧いただける商品を提供させていただきます。

企業経営をしていくうえで最も重要な資源は人です。ですから企業の発展は人の育成や成長にかかっています。企業はあらゆる方法で人への教育を実施しますが、当然それには学校教育が大きく影響を及ぼします。学校教育は企業の発展にも大きく影響を及ぼしているのです。そこで、企業経営をする立場として学校教育で重点的に指導していただきたいことを三つ提言いたします。

一つ目は国語（日本語）です。これがすべてのスタートだと私は考えています。日本語を正しく理解することで知識の習得だけでな


く思考力も高まっていきます。

私たちは目や耳から多くの情報を得ています。人間が他の生物とは比較にならないほど高度なコミュニケーションをとることが可能なのは言語と文字を持っているからであり、それが人類の発展につながりました。特に文字は記録することが可能ですから、培った英知や経験などの膨大な情報を後世に伝承させることができ、それにより高度な文明を築くことができました。

私たちが何かを考えているときは頭の中で会話をしています。そしてそれをほとんどの人は日本語で行っているはずです。思考する際は適切に言語化されていないと論理的に処理することはできません。またイメージや状況を表現する際も言語化が必要であり、それができないと相手には伝わりません。言語化する能力が高いほど思考力や伝達力は高くなります。それを養う学問は国語です。

以上より情報の収集、整理、発信をする能力や思考力を高める国語教育に注力することは人の成長につながるのです。そしてそれは日本社会の更なる発展の礎となるのです。

二つ目は歴史です。歴史は繰り返すというように人類は何千年も前から同じようなことを繰り返しています。その最たるものが戦争です。戦争は悲惨でどれほど愚かなことであるか知っているのにその惨劇は無くなりません。ロシアによるウクライナ侵攻が昨年現実となってしまったこともそれを表わしていま



す。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とドイツの宰相ビスマルクが述べました。変化の激しい現代において歴史から予測できること、教訓とすべきことの価値はますます大きくなっています。

世界との距離がますます近くなるこれからの時代は地球規模での考察と海外の方々との協働が当たり前になることでしょう。その際に重要なことはアイデンティティです。相手を知ることは非常に大切ですが、それ以上に自分が何者であるかを知り伝える方がより大切です。自分が何者かを知るうえで欠かせないのが歴史です。特に近代史を学ぶ意義は高まっていると思います。

日本は歴史問題を抱える国々と近接しています。日本の歴史がすべて素晴らしいわけではありません。辛い歴史や悲しい歴史、繰り返してはならない歴史もたくさんあります。しかしそれらを含めて我々が事実を正しく理解し、それを今後活かすことが必要です。「歴史を忘れた民族は滅びる」という言葉があります。大和民族の未来永劫の繁栄のためにも歴史を学び続ける義務があるはずです。

そして三つ目は道徳です。道徳という教科は正解があるわけではないので学校で教育するのは難しいのかもしれませんが。また受験科目ではないので疎かになりがちなのかもしれません。しかし正しい倫理観が教育、経済、政治などすべての人間の活動の根本になるものですから、一生学び続ける必要がある重要な学問だと思います。

私は稲盛和夫氏を敬愛しています。稲盛氏は京セラと第二電電（現在のKDDI）を創業し、破綻した日本航空を見事に再建しました。2023年3月期には3社合計で売上高は約3兆6千億円、従業員数は13万人を超えます。そ

れだけ偉大な会社を起業、再建された稲盛氏が最も大切にされたのはフィロソフィーと呼ばれている企業理念です。稲盛氏は損得ではなく善悪で、つまり人として何が正しいかをベースに経営し大成功を収めました。激しい企業間競争においても道徳が不可欠であり、それが成功を収める方策であることが立証されているのです。

人間は社会的動物であり、他者との関係無くしては存在することはできません。私たちは他者によって生かされ、そして私たちが他者を生かし、それが社会を形成しています。社会でしか生存できない私たちは社会が良くなるため、世のため人のために尽くすことが私たち一人一人の責務だと思います。学校もまた一つの社会ですから、学校で道徳を学ぶことは大変意義のあることだと思います。

コロナが収束し数年ぶりに海外に行くと、日本の凋落ぶりを肌で感じます。本当に日本は貧乏な国になってしまいました。少子高齢社会で労働力が不足し給与水準が低い日本の競争相手は、物価高が続く欧米諸国や成長著しい新興国ですから、今後も大変厳しいものになるでしょう。そしてそのような国々とも協調し、世界平和のために努めていくことも求められます。先にも述べましたが今後は世界に目を向けて生きていくのが必須です。

世界視野、世界で活躍できる日本人を育てていくのは私たち大人の責務です。私たち日本人には世界から尊敬される精神性や高い技術力を備えていますし、素晴らしい文化や自然も持っています。日本の実力はまだまだこの程度ではありません。子供たちに充実した学びを提供し、この国と世界が明るく希望に満ちた未来になるように、私たちができることをしていきましょう。